

# 除染後農地におけるアカスジカスミカメの発生実態

福島県農業総合センター 生産環境部 福島市駐在

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付け実証(県による実証研究)

研究課題名 除染後農地におけるアカスジカスミカメの発生実態調査

担当者 松木伸浩・根本知明

## I 実証技術の解説

### 1 要旨

除染後農地では、除染完了当年からイネ科雑草が繁茂するケースが知られている。そのため、営農再開した際、イネ科雑草を主たる生息場所とする斑点米カメムシ類の増加が懸念される。除染後保安全管理中の農地における調査を行ったところ、主要種であるアカスジカスミカメが生息していることが確認され、営農再開した際、保安全管理中の農地が発生源となる可能性がある。

- (1) 保安全管理実施農地では、調査開始時の6月上旬に既にイタリアンライグラスが出穂しており、中旬に枯れあがった。7月中旬には、イタリアンライグラスが極わずかに再出穂し、8月中旬には、アキノエノコログサ、メシバが極わずかに出穂した。
- (2) 保安全管理実施農地では、8月下旬までアカスジカスミカメ成虫は確認されず、9月上旬のみ確認された(写真1、図1)。他に、アカヒゲホソドリカスミカメ等が確認された。
- (3) 除染直後の農地では、7月にスズメノテッポウ、イヌホタルイの出穂が、極わずかに確認された。8月上旬からノビエ、アキノエノコログサの出穂が始まった。その後、ノビエ主体のイネ科雑草が繁茂した(写真2)。
- (4) 除染直後の農地では、調査開始時の7月下旬からアカスジカスミカメ成虫が確認されたものの、調査期間を通じて、5頭未満/20回振りであった(図2)。
- (5) 除染後間もない農地ではアカスジカスミカメは低密度であり、表土剥ぎによる餌植物・アカスジカスミカメ卵のほ場外への持ち出し等、生息環境攪乱が原因と考えられた。

### 2 期待される効果

- (1) 水稻を作付け再開する際の参考資料となる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 飯舘村の除染後農地における単年度調査結果である。

## II 具体的データ等



写真1 アカスジカスミカメ成虫



写真2 除染後農地の様子(8月28日)  
ほ場:飯館村二枚橋(2015年5月除染完了)

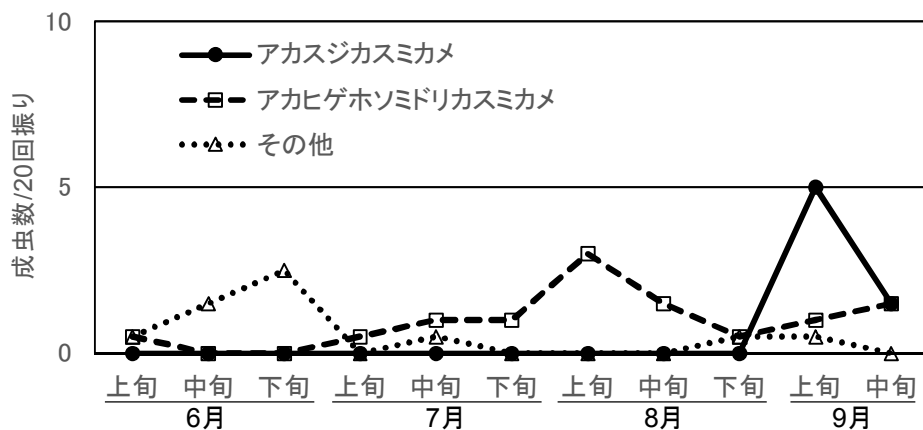


図1 保安全管理実施農地における斑点米カメムシ類のすくい取り成虫数  
ほ場:飯館村飯樋(2014年9月除染完了、10月にオーチャードグラス・イタリアンライグラス・クローバの混播)

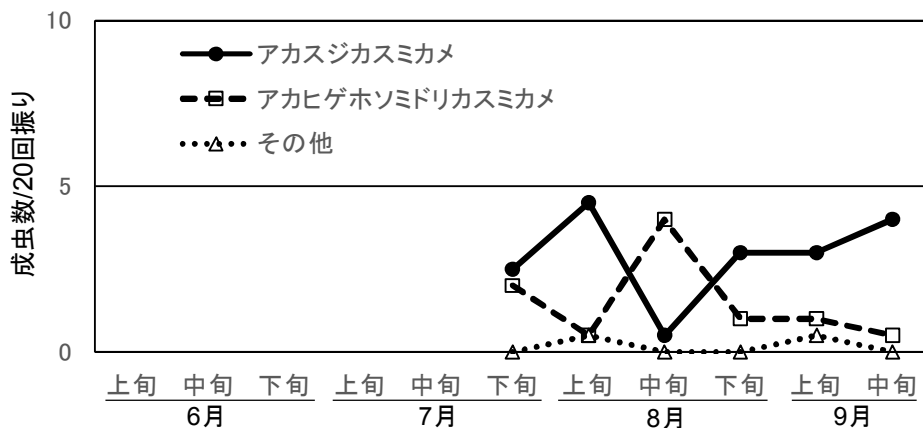


図2 除染直後の農地における斑点米カメムシ類のすくい取り成虫数  
ほ場:飯館村二枚橋(2015年5月除染完了)  
数値:20回振り2カ所の平均値、その他:ホソハリカメムシ

## III その他

- 1 執筆者 松木伸浩
- 2 実施期間 平成27年度
- 3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) アカスジカスミカメによる「あきたこまち」の被害状況と防除適期((平成 21 年度参考となる成果)